

# 歯周細胞生物学入門（小牧基浩）

Introductory Periodontal Cell Biology ( Motohiro Komaki )

## キーワード

- ①歯周病学 (Periodontology)
- ②歯根膜細胞 (Periodontal Ligament Cells)
- ③骨芽細胞と破骨細胞 (Osteoblasts and Osteoclasts)
- ④血管新生 (Angiogenesis)
- ⑤間葉系幹細胞 (Mesenchymal stem cells)

## 授業概要

歯周治療を成功に導くためには、歯周病学の知識とこれを裏付ける歯科基礎医学を理解することが重要である。本講義では、歯周組織の破壊と修復（再生）に係る生体の変化を、組織、細胞レベルで理解することで、歯周炎の病態と治療後の治癒をイメージするために必要な生物学的基礎を学びます。

## 授業科目の学修目標

本講義の目的は、生物学的知識を歯周病の診断、治療に結び付けて考えるための基礎を身につける。

## 授業計画

- ①歯周治療の目的と歯周病診断の基礎 5コマ 杉原俊太郎 平田貴久  
・歯周組織の特徴とその生物学的メカニズム
- ②歯周組織を構成する細胞 6コマ 小牧基浩 杉原俊太郎 平田貴久  
・骨とセメント質  
・細胞生物学の基礎
- ③炎症と外傷の病理学 5コマ 小牧基浩 杉原俊太郎 平田貴久
- ④治癒と再生 5コマ 小牧基浩 杉原俊太郎
- ⑤幹細胞生物学 5コマ 小牧基浩
- ⑥倫理教育 4コマ 青山典生

## 教科書および参考書

なし

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯周病学に対する基本的知識と興味をもって参加すること

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ①口腔の特殊性を理解し、歯周治療学を歯科基礎医学と関連づけて説明できる。
- ②歯周病学領域の細胞生物学が説明できる。
- ③歯周組織の炎症と外傷の病理が説明できる。
- ④歯周組織の治癒と再生の病理を説明できる。
- ⑤間葉系幹細胞と再生の関係について説明できる。
- ⑥より良い歯周治療について私見を述べるができる。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	20%	50%	0%	30%	0%

## 評価の要点

- ・試験は、自身で論文を選択要約し、論文の意義と問題点をコメントできるかを成果発表形式で判定する。50%
- ・レポートは、各自に出題された内容について与えられた字数制限内で提出する。4% x 5回 = 20%
- ・口頭試問は、講義中に行い理解度を判定する。6% x 5回 = 30%

## 理想的な達成レベルの目安

理想的達成レベルは、症例の病態ならびに治療経過を組織・細胞レベルでイメージできる。(75%以上)